壇の岡

１０月４日（金）　第６４号
発行責任者
鮫川中学校長　角田敏文

教育目標

学ぶ心　よく学び自己を高める生徒
美しい心　心豊かで思いやりがある生徒
強い心　心身を鍛えたくましい生徒

こちらから各学年だより等がスマートフォンからもご覧できます。

どうでしたか・・・・

9月30日(月)・10月1日(火)に定期テストが終了しました。お子さんの1日の帰宅後の様子はどうでしたか？

①テスト終了の開放感で家庭学習をしなかった。

②しっかり反省して、できなかったところや疑問なところを調べ学習した。

③宿題しかやらなかった。

自己採点→分析(反省)→計画→実践（テスト）→作戦→練習

計画　計画表の作成
練習・作戦　テスト学習
実践　定期テスト
分析・反省　授業・学級活動

昨年度からの取り組みです。このサイクルが定着している人が増えてきました。【壇の岡№54号・56号掲載】

高校入試では言い訳や逃げることはできません。まず、反省・分析をおこなったか確認してください。

時間意識と行動

一日二十四時間という有限の資源をどう生かすかで個人の生産性は変化します。生産性を高めるというと、短い作業時間で詰め込むばよいと思いがちですが、実際の生産性とは、期待される成果を出すために必要な時間をきちんと把握してこそ高められるものです。

つまり、**イメージできないものは、行動に反映できないのです。**同じ時間で、生産性を高められる人とそうでない人との差は、こうした意識と行動の違いから生まれるのです。期待される成果に対して時間意識のない行動は、意志のある行動とは言えません。

限られた時間で生産性を上げるために、すぐに実行できることは、**時間の使い方を三段階「計画→実行→振り返り」で見直すことです。**計画とは、週単位、一日単位での計画で、柔軟性（八割程度）を残すことで計画通りに進まなくても、心（体）の負担が少なくなります。実行とは、意識ある課題への取り組みです。そして週の終わりに振り返りの時間を持ち、作業時間や内容を見直すことで、次回さらに効果的な時間の使い方へとつながります。この三つの課程において成果と時間のバランスを意識する積み重ねが大きな差を生むのです。

全国学力調査結果（3年生）

生活についての調査結果が、全国平均よりすべて大きく上回っていたことは、学校や学年の取り組みに対し、生徒自身が真面目にコツコツとこなしたことの表れであり、さらに保護者の皆さんの取り組みにご協力があるからこそ、受験に向けて取り組んでいきましょう。

○自分には良いところがある。　＋7.4
○将来の夢や目標を持っている。　＋16.7
○学校に行くのが楽しい。　＋21.7
○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか。　＋16.3
○先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。　＋16.7
○先生は、間違えたことや理解していないことについて分かるまで教えてくれていると思いますか。　＋12.3
○学級での話し合う活動を通じて、自分の考え深めたり、新たな考え方に気付いたすることができていますか。　＋11.4
○学校生活で、友達の考えを大切に、お互い協力しながら取り組んでいる。　＋23.5

全国学力調査はあくまでも学力の一部分であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

感動をありがとう

2日（水）に東西しらかわ中学校音楽祭（合奏の部）が白河文化交流館コミネスで開催されました。3年生全員が、ハンドベル「私のお気に入り」、リズムパーカッション「ミッキーマウス・マーチ」を演奏しました。七月から朝・昼休みに練習に励んできました。各個人が心を充実させ、3年生が一丸となって心を一つにして演奏する姿は素晴らしかったです。

週の行事予定

13	12	11	10	9	8	7
日	土	金	木	水	火	月
カデット強化卓球大会	ビブリオバトル県大会 金澤杯ソフトテニス大会 県ＰＴＡ郡山大会		思春期講座（３年生）	NO部活動デー		文化祭準備期間～18日